

環 境 方 針

基 本 理 念

(財)2005年日本国際博覧会協会は、愛・地球博のテーマである「自然の叡智」のもと、人と自然の新たな関係を創造する試みを通じて、人類が直面する課題の解決の方向性と人類の生き方についてのメッセージを発信します。

21世紀の大きな課題である持続可能な社会づくりを目指して、ゼロエミッションなどを導入した循環型社会の形成とその実践に向けて、世界の一人ひとりが考える機会となる博覧会を目指します。

基 本 方 針

(財)2005年日本国際博覧会協会は、開催期間の前後を通じて会場計画・会場建設を始め、会場運営、観客輸送、協会企画事業などの面で、環境影響評価書に記載された環境保全措置を遵守するとともに、環境への配慮を積極的に進めてまいります。

博覧会参加者に対しては、環境影響評価書に記載された環境保全措置を遵守することはもとより、自主的かつユニークな環境配慮への取組が展開できるように支援いたします。

来場者に対してもまた、協会の環境配慮への取組や、配慮していただきたい事項をとりまとめ、PRすることにより、自主的な配慮をお願いしてまいります。これらを実践するために、以下の取組を重点的に行います。

- 1．環境影響評価書に示した保全措置を実施します。
- 2．自然環境に配慮した会場計画を策定します。
- 3．循環型社会のための先進的な技術の導入を進めます。
- 4．3R（リデュース、リユース、リサイクル）を積極的に導入します。
- 5．環境負荷の少ない交通手段の利用促進を進めます。
- 6．展示や催事を通じて、楽しみながら学ぶ機会を提供します。
- 7．関係者の環境配慮に関する取組みを促進します。

平成15年5月12日

財団法人 2005年日本国際博覧会協会

事務総長 坂本 春生

環 境 目 標

(財)2005年日本国際博覧会協会は、別添「愛・地球博 環境配慮の枠組み」及び別途作成した「愛・地球博 環境マネジメントシステム推進マニュアル」を基に、環境方針に沿った以下の事項について取り組むとともに、計画の熟度に応じてこれらを見直し、追加して、実現に向けた新たな取り組みを検討します。また、その結果を環境レポートとしてとりまとめ、世界に発信します。

1. 環境影響評価書に示した保全措置の実施

本博覧会では、環境影響評価法を先取りした大規模な環境アセスを実施した。

会場整備中、開催時、会期終了後の各段階において、環境影響評価書における環境保全措置を実施し、環境負荷の低減に努める。

- (1) 工事の平準化、搬出入ルート・時期の分散や、観客の公共交通機関への積極的誘導、自家用車駐車場の分散配置、低公害車の導入などによる会場周辺の生活環境への負荷の低減に努める。
- (2) 生態系をはじめとする生物の多様性の確保、および、自然環境の体系的保全や景観をはじめとする人と自然との豊かなふれあいを確保する。
- (3) 事業による影響を確認するために、モニタリング調査を実施することとし、著しい影響があると認められた場合には必要な措置を講じる。

2. 自然環境に配慮した会場計画の策定

会場計画策定にあたっては、「2005年日本国際博覧会基本計画」(2001年12月)に基づき、環境に配慮しつつ、自然環境への負荷低減に努める。

- (1) 現状の平坦な地形や既存の建物を活用するとともに、回廊型のメインストリートであるグローバルループを計画し、会場の大規模な造成を回避する。
- (2) 注目すべき種がまとまって分布する区域や森林域・池を出来るだけ回避する。

3. 循環型社会のための先進的な技術の導入

自然エネルギー、新エネルギー、リサイクル技術等循環型社会の構築に不可欠な先進的技術の導入を目指して、次のような取り組みを進める。

- (1) 会場内で食器類等に生分解性プラスチックを活用する。
- (2) 太陽光などの自然エネルギーや燃料電池などの新エネルギーを会場内で積極的に活用する。
- (3) 生ごみのメタン発酵や、廃プラスチック・木質のガス化による燃料を利用する。
- (4) 高濃度オゾンによる排水処理など、先進的技術を導入する。

4. 3R（リデュース、リユース、リサイクル）の導入

会場整備および会場運営においては、3Rに配慮し、次のような取り組みを進める。

- (1) コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊及び建設発生木材の再資源化率目標を95%とする。
- (2) 会場整備に伴って発生する支障木は、2,000本の場内移植を行う。
- (3) 環境にやさしい素材の利用率を高めるための各種施策（チップ舗装、間伐材あるいはリサイクル材の利用促進）を進める。
- (4) 会場内のごみの分別回収17分類を徹底し、廃棄物発生量を削減する。

5. 環境負荷の少ない交通手段の利用促進

来場者の動向に合わせた多様な輸送手段および適切なルートの設定や、最新技術を導入した移動手段の提供など、次のような取り組みを進め、環境影響の低減とCO₂等の削減に努める。

- (1) 路線の相互乗り入れにより利便性が向上する愛知環状鉄道や、低騒音・低振動の磁気浮上式システム（HSST）を採用した東部丘陵線などの鉄道系の公共交通機関の積極的な利用促進を図ることにより、自動車の走行量を削減する。
- (2) 自動車での来場者に対するパーク＆ライドの実施、道路・駐車場の状況に応じた適切な案内・誘導等により会場周辺の自動車走行の集中を抑制する。
- (3) シャトルバス等に燃料電池バスや天然ガスバスなど低公害車の導入に努める。
- (4) 最新のITS（高度道路交通システム）を活用した、きめ細かい情報提供を行う。
- (5) 会場内の移動手段の一つとして最先端技術を用いた無人バス隊列走行による低公害型の移動手段（IMTS）を導入する。

6. 展示や催事を通じた楽しみながら学ぶ機会の提供

展示・催事では、地球環境問題等の世界的な課題等について、楽しみながら学び・考える機会を提供するため、次のような取り組みを進める。

- (1) 会場の自然を素材にして、インタープリターを通じ、参加者が自ら体験し、気づいたこと・感じたことから学びを深め、次の行動へ活かされるような「参加・体験型の環境教育プログラム」を提供する。
- (2) 会場内の環境データを来場者へ分かりやすく提供するシステムを検討する。
- (3) 環境や水循環をテーマにした展示・催事を行い、楽しみながら地球環境問題等について学び、理解を深める機会を提供する。
- (4) 国際子ども環境会議など、環境をテーマにした国際会議を開催する。

7. 関係者の環境配慮に関する取り組みの促進

参加者・来場者に対して、環境配慮の取り組みを働きかける。

- (1) 参加者が環境保全に関し遵守すべき事項、および、自主的な環境配慮の取り組みを定めた環境配慮のガイドラインを作成し、具体的な取り組みの推進を促す。
- (2) 来場者に対してもまた、協会の環境配慮の取り組みや、配慮していただきたい事項をガイドとしてとりまとめ、環境に関する取り組みを促す。

愛・環境配慮の枠組み

